

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

教科	年度目標	達成状況の結果と分析	達成状況
国語	漢字の読み書きなどの基礎学力の充実を図る。宿題を適切に課して、生徒に家庭学習の習慣をつけさせる。3年生については、就職・進学を受験指導を適宜行う。	毎週の家庭学習課題を通じて、漢字の読み書きなどの基礎学力が身に付いてきた生徒が増えた。3年生については、就職・進学を受験対策を適宜行った結果、自分の進路実現に結び付けて学習する姿勢が見られた。	B
地歴 公民	教材を工夫し、反復学習等を行うことで基礎基本の定着を図る。また、視聴覚教材等を活用し、生徒が興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組めるようにする。	反復学習等を行うことで、基礎基本が定着しつつある。また、視聴覚教材等の活用により、生徒が意欲的に学習に取り組めるようになった。	B
数学	問題を解くための方法や考え方、立式などを中心に指導することにより、知識の理解と基礎学力の向上を目指す。また就職・進学に対応できる問題の演習を行う。	教科書の基本問題を理解し、年度当初にくらべて解きこなす生徒が増えた。数学が受験科目に必要な、進学先を選択する生徒が増えた。また、合格する生徒もいた。	B
理科	実験・観察などを通して理科への興味・関心を持たせ、実生活と結びつけて考えられるようにする。年度始めと終わりのアンケートで、自然科学に興味・関心を持つ生徒の増加を目標とする。	可能性な限り実験を行い、実生活で使える話を多く話したが、興味・関心が増加した生徒は5%ほどであった。しかし、学習内容を生活に活かしていると回答した生徒は10%を超え、実生活で理科の知識を活かしている傾向が増えたと考える。	B
保健 体育	個人の基礎体力を高めるとともに、運動を通じて技術を高め、安全に自ら進んで運動に親しむ態度を身に付けさせる。	具体的な目標を設定し、個人個人に応じた段階的指導を行った。意欲的に授業に取り組む生徒が増え、安全に自ら進んで運動に親しむ姿勢が見られた。	B
家庭	自立した生活を送ることを目標とし、生活における問題点を見つけ出し、解決する力を養う。実習においては他者と協調して作業を行うことができるようにする。	資料集などを活用し、問題解決に向けての課題を繰り返すことで、授業でも積極的に意見をだす姿勢がみられるようになった。実習でも徐々に協力して作業できるようになった。	B
芸術	芸術に対し、様々な観点から個々の生徒が興味・関心を持ち、個性を生かした創造性豊かな取り組みができるようにする。	芸術に関心を持ち、それぞれの課題に対して積極的に取り組む生徒が増えた。また独自に工夫しようとする姿勢も見られた。	B

英語	<p>英語の基礎・基本の定着を徹底することを目標とする。また、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、英語の情報を理解し、自分の考えを英語で伝えることができるよう、書くこと・話すこと・読むこと・聞くことの基礎力の向上をめざす。</p>	<p>基礎・基本の定着を目標にした指導を継続的に行った。全商英検 3 級の合格者は昨年度より倍増し、今後、より多くの生徒が上級の級に挑戦できる結果となった。年度後半は C-NET による ICT を活用した文法指導も充実し、英語に苦手意識を持つ生徒にも様々なアプローチで学習を促すことができた。</p>	B
商業	<p>基礎基本を押さえ資格の取得や技術の習得に意欲・関心を持たせる。各種検定において基礎資格である 3 級の取得をめざすとともに、3 年生については選択科目で各種検定において 1 級の取得をめざす。課題研究では観光ビジネス、ソフトウェア活用、商業経済演習の講座で情報収集能力やプレゼンテーション能力を向上させる。また社会貢献、キャリア探求、ビジネスマナー、IT 入門、販売実習の講座ではビジネスにおける実践的な知識・技術の習得と職業人としてのマナーや職業観の育成を図る。</p>	<p>科目において基礎基本を重視した学習指導を継続的に行った。多くの生徒が学習に意欲的に取り組む姿勢をみせた。次年度より始まる「ライフプランニング」におけるキャリア教育と関連付けながら生徒が主体的に商業を学ぶ環境を整えていく必要がある。課題研究の各講座では 1 年を通して多くのプレゼンテーションや実践的な学習を実施した。生徒が自分で課題を見つけ、情報収集や資料作成を通じて情報処理能力を身に付け、勤労観や職業観を育成することができた。</p> <p>また今年度は落書き対策事業（ウォールアート作成）など地域との連携を重視した取り組みを多く実施した。次年度も地域全体で商業教育を展開していけるように工夫したい。</p>	B